

◆八幡市駅リニューアル

駅舎改修に当たり、八幡の竹や白熱電球(エジソンが白熱電球を発明する際フィラメントに八幡の竹を用いたというエピソードによる)をモチーフにしたデザインを取り入れました。

テント屋根やLED照明の採用、エレベーター、トイレなどの整備によって、お客さまにも環境にもやさしい駅を実現しました。



八幡市駅外観

◆樟葉駅トイレのリニューアル

快適性の向上を図るため、洋式便器を拡充するとともにウォシュレットを採用し、女性用パウダーコーナーには除菌イオン発生装置を導入しました。また、お子さま連れの方のためにベビーシートをはじめとした幼児用設備を拡充したほか、地球環境への配慮としてLED照明や超節水小便器などの節水型器具を採用しました。



女性用トイレ内観



女性用パウダーコーナー

バリアフリー化の取り組み

◆車両のバリアフリー

当社では、車内に車いすスペースを順次設置しており、平成23年3月31日現在351両となっています。

また、出入口上部に車内案内表示器を設置し、列車種別、先行、停車駅、次駅で開くドアの案内などを文字などで表示するとともに、非常時に乗務員と直接通話ができる非常通報器を600、700形、800、3000、5000、7000、7200、8000(一部車両)、9000、10000系各車両に搭載しています。



車いすスペース



車内案内表示器

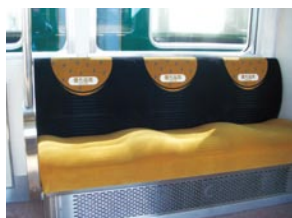


非常通報器

さらに、お年寄りや体の不自由な方、妊娠されている方などのための優先座席ゾーンの明確化を図っています。従来から窓ガラスに貼りつけていたステッカーに加え、座席の背もたれはオレンジをベースにピクトグラム[※]を印刷したものとし、カーテンは「優先座席」マークとピクトグラムを印刷したものに、また8000系特急車両や3000系車両では座席の枕カバーはオレンジ色をベースにピクトグラムを配したものにしています。

なお優先座席ゾーンでは、すべてのつり革に「電源OFF」シールを貼りつけ、携帯電話の使用禁止について注意喚起をしています。

※情報や注意を示すための絵文字。



優先座席

◆駅のバリアフリー

国および地方自治体と協力し、エレベーターやスロープ、多機能トイレをはじめとしたバリアフリー化設備を順次整備しています。

平成22年度は、エレベーターを土居駅、八幡市駅、東福寺駅、宮之阪駅、六地藏駅に整備し、スロープを淀屋橋駅、星ヶ丘駅、郡津駅に、多機能トイレを土居駅ほか6駅に、多目的トイレにオストメイト設備を野江駅ほか6駅にそれぞれ整備しました。

平成23年3月末現在、乗降者数5,000人以上である57駅のうち、51駅のバリアフリー化(段差解消)が完了しています。



エレベーター(八幡市駅)



スロープ(星ヶ丘駅)



多機能トイレ(樟葉駅)



二段手すり(宮之阪駅)